

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人燦燦会 さぼーとハウス和音 児童発達事業		
○保護者評価実施期間	令和7年2月20日 ~ 令和7年3月7日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 8名	(回答者数) 6名	
○従業者評価実施期間	令和7年3月10日 ~ 令和7年3月19日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 8名	(回答者数) 8名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的支援が充実していて、利用児に合わせた、訓練を行うことができる。	利用児全員ができるだけ公平に訓練を受けられるように、スケジュールを作っている。	専門支援員から指示や助言を受けた、そのほかの支援員も訓練的で準専門支援を行っていく。
2	室内プールや入浴設備、屋外遊具など、利用児にあった設備が充実している。床暖などの設備も充実している。	入浴介助や注入など、医療的ケア児や重度心身障がい児への受け入れの強化や、学校が終わってからの時間をゆっくりと過ごせる環境を作っている。	多様な利用児たちと共に過ごせるように、車椅子上で過ごすのみではなく、横になったり、座って過ごせる環境を作っていく。
3	異年齢交流ができています。未就学児から、高校性までの幅広い利用児とのかかわりが行えている。年下の利用児は年上の利用児の真似をしたり、反対にお世話をしたりと、子ども達同士のかかわりができています。	異年齢の計画的集団活動を行っている。トラブルなども起きることがあるが、仲介を職員が行ったり、子ども同士で解決したりと利用児同士のかかわりを大切にしている。	集団活動を増やし、それぞれがたくさんのかかわりを持てるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	異年齢交流ができる反面、利用児全体への取り組みや、支援の難しさがある。また、車いすを利用している利用児も多く、全体を通して、利用児が楽しい遊びを提供する難しさがある	0歳から18歳までの幅広い利用児がいる事	午前中は、未就学児への対応がしっかりとできている。放課後デイを利用している、子ども達が登園してからの活動をしっかりと計画して行っていく
2	職員の配置や異動が多いこと	法人自体が大きいため、異動が必須である事	業務や雑務のマニュアル化
3	安全面を考慮した場合、多種多様な利用児がいるので移動に時間がかかったり、外出することの難しさがある	利用児5人に対して1人の職員という、法的概念であったり、土曜日を開所しているため、必然的に職員の休みが入る事	時間帯を分けた外出支援の仕方の検討